ば、其やまにはる〲といりて、たかきやまのみねの、をりくべくもあらぬにおきてにげてきぬ、や、といへどいらへもせで、にげて家にきておもひをるに、いひはらだてける折、はらたちてかくしつれど、としごろおやのごとくやしなひつゝ、あひそひにければ、いとかなしくおぼえけり、この山のかみより、月もいとかぎりなくあかくて、いでたるをながめて、夜ひとよいもねられず、かなしくおぼえければ、かくよみたりける、

わがこゝろなぐさめかねつさらしなやおばすてやまにてる月をみて

〔北國紀行〕をば捨山は、いづれの嶺を隔て侍るぞと尋ね侍るに、いたりて遠くは侍らねども、山川雲霧重なりて、此ごろいとあやしき事の侍る道にてなど聞えしかば、只堂前の峯の上より遙かにながめ侍りて、

よしさらばみずとも遠くすむ月を面影にせん姨捨の山

〔書言字考節用集 二乾坤〕金花山 奥州牡鹿郡、本朝黃金始出當山、

〔國花萬葉記 十一陸奥〕金花山 仙臺東 此島山の磯邊に砂金有、凡人とる事あたはず、聖武帝の御宇に、金銅盧舍那佛の薄代に、初て此國山の金を獻せしも、藏王權現の神勅によつてなり、又金海鼠とて、なまこの名物此島根より出る腸金色にして光有、故金鼠と名く、

皇の御代さかへんと東なる陸奥山に金花さく

〔和漢三才圖會 六十五陸奥〕金花山 在仙臺卯辰方 陸十三里半海上十七里 海島也 小田郡 辨才天 江州竹生島、相州榎島、藝州嚴島、世稱三辨、又加富士山金花山謂五辨、而辨才天之說、出和州大峯下、有寺名大金寺、聖武帝 天平二十一年 自當山始出黃金、國司 名百濟王敬福 獻之京師、帝甚喜、以爲是造大佛之德、而初得此寶、仍幸東大寺謝、其島傍所出海鼠、背帶金色、故稱金海鼠、亦奇也、山上有三社權現、山奥有水晶大石、高五丈許、六稜而三抱許、白色如水晶、